

在シドニー総領事通信

第 20 回 オーストラリアの日本語教育——日豪交流・協力の担い手をつくる

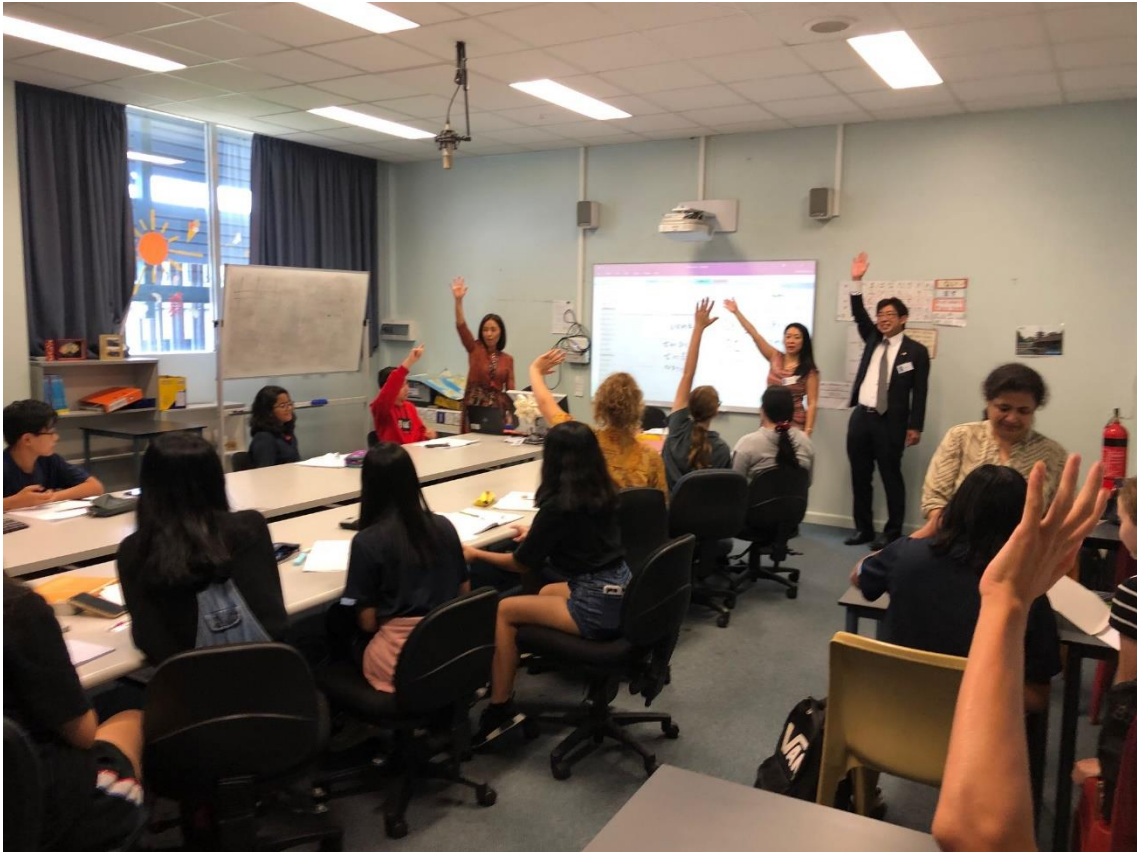
令和 2 年（2020 年）7 月 27 日

私がオーストラリアに来て最初に感じたことの一つは、日本語で話しかけてくる人が多いことです。観光客向けの土産店やレストランだけでなく、意外な場所で、日本語で声をかけられ、日本との関わりを話してくれる人と出会います。

これはおそらく偶然ではなく、オーストラリアの日本語学習者が多いからだと思います。オーストラリアの日本語学習者数は約 40 万人で、中国（約 100 万人）、インドネシア（約 71 万人）、韓国（約 53 万人）に次いで第 4 位です。しかし、人口 10 万人当たりの日本語学習者数で見ると、オーストラリアは 1,708 人とダントツで世界一です（日本語学習者数上位 10 位の中では、第 2 位は韓国で 1,040 人、第 3 位は台湾で 721 人）。現在、オーストラリアでは約 60 人に 1 人が日本語を勉強しているのです。

当地での日本語教育の後押しも、私の大事な仕事です。着任以来、日本語教育を推進している方々のお話を伺い、学校の日本語クラスを視察する機会もありました。その中で、日本語教育はオーストラリアの社会に深く根付いており、日本との接点となり、日本文化への関心、親近感、理解の水準を高めて日豪間の交流・協力の担い手をつくる役割を果たしていると感じました。当地で日本語教育に携わっている皆様に心から感謝申し上げます。

今回の総領事通信では、オーストラリアの日本語教育について、これまで私が見たり聞いたりしたことをご紹介しながら、それが日豪交流・協力の果たす役割について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。



ダーウィン高校の日本語クラス（2020年2月21日）

●オーストラリアの初等・中等教育における日本語教育

オーストラリアでこのように日本語学習者が多い最大の理由は、義務教育の中で、日本語が外国語の必修科目、または選択科目の一つとして教えられている学校が多いからです。オーストラリアの日本語学習者の96%が小中高校生です。

1990年代後半に、日豪関係の大きな進展を背景として、当地でも“Tsunami”と呼ばれた日本語教育ブームが起きました。それが落ち着いた現在も、日本文化への高い関心により、日本語はオーストラリアで最も学習されている外国語の一つとなっています。

本年2月にダーウィン高校を訪問し、日本語クラスを初めて視察しました。生徒達は授業に積極的に参加して発言しており、楽しそうな授業でした。日本語クラスを選んだ理由を聞いてみると、日本のポップカルチャーが好きだから、また日本にスキー旅行に行って好きになったからとの回答が多く、日本文化への関心が原動力になっていると改めて感じました。



セントフィリップス高校での日本語クラス視察（2020年3月13日）

本年3月には、アリススプリングスのセントフィリップス高校の日本語クラスを視察しました。授業では、動画を使い、生徒同士の競争もさせて、ゲーム感覚で実用的な日本語を教えていました。教室には、写真にあるように日本の文化に関係する垂れ幕やポスターがたくさん飾られていました。

オーストラリア政府は、学校での語学教育の目的として、（１）目標言語でコミュニケーションができることのみならず、（２）言語・文化・学び、それらの関係を理解すること、そのプロセスを通して異文化間能力を身につけること、（３）自分をよく知ること（アイデンティティ）、の３つを明示的に掲げています。

単に語学を技能として学ぶのではなく、異文化間の相互理解やコミュニケーションにも力点が置かれているので、日本語教育は、子どもの頃から日本文化に対する理解を深める重要な機会になっています。



NSW 州立大学での日本研究発表会（2019 年）

●オーストラリアの高等教育における日本語教育

オーストラリアの大学でも、日本語コースが運営されているところが数多くあります。私自身まだ視察できていませんが、専門家からお話を伺いました。

大学レベルでの日本語学習といえば、上級の語学力を目指す学生や、単位の取得や将来の就職など実用的な目的で受講する学生が多いと思うかもしれません。しかし、実際には、日本のポップカルチャーやクールジャパンに惹かれて初級クラスを受講する学生が多く、大学によっては理系の学生が多数を占める場合もあるとのことです。

また、オーストラリアの大学で外国語科目として日本語を選択する学生にはアジアからの留学生が多いと聞いています。多文化社会を掲げるオーストラリアが、アジアの留学生に対して、英語のみならず日本語に触れる機会になっていることを嬉しく思います。

しかし、今回の新型コロナウイルスにより、大学の財政難による人員削減への対応や、オンライン化が語学教育の質に与える影響など、新たな課題に直面してい

る由です。また、初等・中等教育での日本語学習者数が、高等・成人教育での日本語学習者と大きく乖離しており、継続学習者・潜在的学習者をどのように取り込んでいくかという課題もあります。今後、大学や民間による日本語教育を、関係者と協力しながら、可能な形で応援したいと思っています。



第50回全豪日本語弁論大会（2019年10月12日）
（シドニー日本文化センター提供）

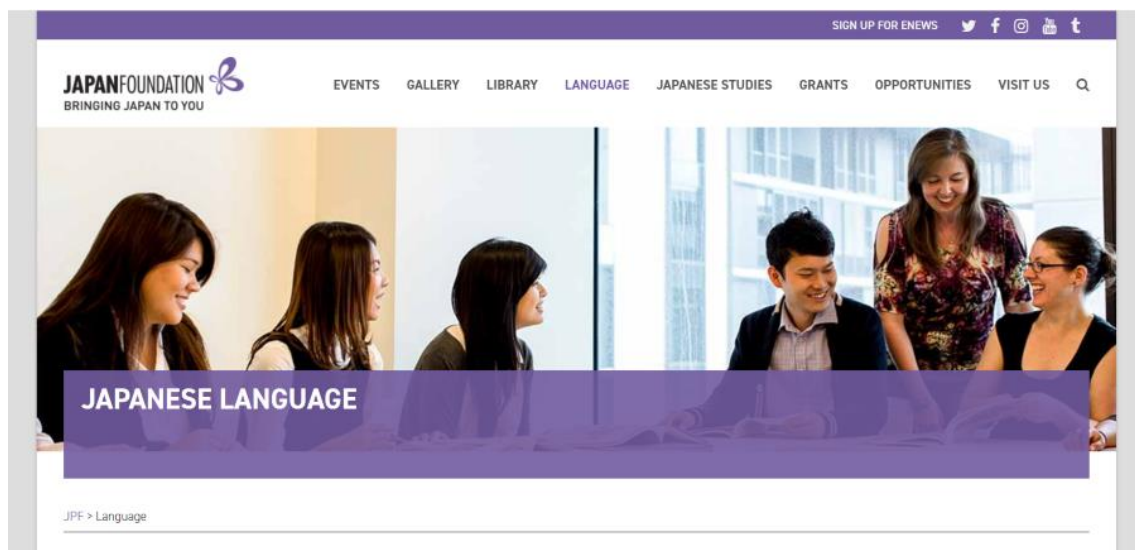
●シドニー日本文化センター（The Japan Foundation Sydney）

シドニーには、日本語教育を推進するシドニー日本文化センターがあります。場所は、セントラル駅近く、シドニー工科大学（UTS）向かいのセントラル・パーク・モールの4階です。

昨年10月には、第50回全豪日本語弁論大会が同センターで開催されました。各州・地域の予選を勝ち抜いた代表が熱弁をふるい、ライブ中継もされました。長い歴史を持ち、全国の日本語教育の水準向上に貢献しています。

また、毎年恒例のビデオ祭りでは、日本語を題材にしたショートビデオを公募して、カテゴリー毎に優秀賞を授与します。昨年のビデオ祭りの優秀賞を見ましたが、オーストラリアの子供たちが日本語を使って寸劇を演じており、力作揃いです。今年は9月1日が締め切りとのこと、新たな作品を楽しみにしています。

その他、日本語教師向けに、様々な研修や教材提供を行っています。日本語学習者が多いからこそ、日本語教師の質の確保が極めて重要です。国際交流基金の日本語教育専門家によれば、オーストラリアの教育カリキュラムは大変質が高く、よく工夫されているとのこと。それが言語教育にも反映され、関係者による長年の努力と相まって、現場の成果につながっているのだと思います。



シドニー日本文化センターの日本語学習ウェブサイト

<https://jpf.org.au/language/>

同センターでは、一般の成人学習者向けに日本語コース（J Course）も運営しています。現在はコロナ対策のためにオンラインによる授業となりますが、そのおかげで遠隔地からも受講できます。更に、国際交流基金が運営するオンラインの日本語学習プラットフォーム「みなと」でも、自習コースに加え、教師のサポートを得られるコースが増えてきました。これらの機会を広く活用してもらいたいと思っています。



シドニー日本語土曜学校を訪問する中山展宏外務大臣政務官
(2020年2月22日)

●日本語補習校の発展と継承語としての日本語教育

以上のようなオーストラリアの教育機関での日本語教育に加え、日本人の親を持つ子供が、一般の学校に通いながら週末や平日夕刻に日本語を勉強するために、日本語補習校が運営されています。NSW州には、このような日本語補習校が全部で12校あります。基本的には保護者代表により運営されており、一定の条件を満たすものについて、州政府や日本政府も支援を行っています。

本年2月、中山展宏外務大臣政務官がシドニーを訪問した際、市内北部のギャラリーにある「シドニー日本語土曜学校」を視察し、私も同行して一緒に説明を受けました。親の中には、数年間の当地駐在員のみならず、オーストラリア人との結婚や当地での就職・起業による永住者も多く、生徒たちの全てが将来日本の学校に進学することを目的としているわけではありません。オーストラリアの日本人の二世、更には今後三世が生まれてくる中で、継承語(heritage language)としての日本語教育のニーズも高まっています。多様な日本語教育のニーズにどう応えていくべきかが課題になっていると感じました。

日本では、昨年施行された日本語教育推進法に基づき、本年6月に日本語教育推進の基本方針が閣議決定されました。その中で、「海外に移住した邦人の子孫等は、我が国と在留国との間の交流や在留国における親日層の拡大における活躍

に加えて、多様な言語・文化背景を持つグローバル人材としての活躍が期待できることから、これらの者が日本をルーツに持つことを認識し、我が国に関する理解を深めることを促すため、これらの者に対する日本語教育支援に必要な施策を講ずる。」との方針が打ち出されました。これを踏まえて、当地でも、日本語補習校が様々なニーズに応えられるよう、適切な支援の方法を考えていきたいと思っています。



シドニー日本人国際学校国際学級卒業式（2019年12月17日）

●シドニー日本人国際学校

更に、当地には日本人の子弟のために日本語で全日制の教育を行う学校もあります。シドニー北部テリーヒルズの「シドニー日本人国際学校（Sydney Japanese International School）」です。これは先進国に設立された最初の日本人学校で、1969年に開校し、1971年に現所在地に新校舎が完成し移転しました。その際に校舎建設資金を日本政府が支援した方法は「シドニー方式」と名付けられ、その後世界中の日本人学校で活用されました。昨年、創設50周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。

この学校の特色は、日本人学級と国際学級が併設され、バイリンガル・バイカルチュラル教育が徹底していることです。日本人学級は文部科学省の学習指導要領に準ずる教育を行いながら、英語の授業を週4～5回行います。国際学級は

NSW 州の学習指導要領に準ずる教育を行いながら、日本語の授業を毎日 1 時限行います。更に、体育・音楽・図工の授業は両学級が一緒になり、両学級の生徒が隣同士に座ることで、お互い友達になるよう配慮しています。

昨年 12 月、国際学級の卒業式に参列し、挨拶をさせていただきました。在校生代表が日本人学級と国際学級が一緒になって、卒業生に日英双方でメッセージを送るのを聞いて感動しました。私からは卒業生に対して、この学校で日豪双方の良いところ学べるのは本当に幸運であり、将来に向けて是非この貴重な経験を生かしてほしいとのことばを送りました。



シドニー・アニメ・フェスティバル（2020 年 3 月 7 日）

●日豪交流・教育の担い手をつくる日本語教育

私自身は大学を出て就職・留学するまで日本で育ちましたが、外務省で 30 年以上仕事をする中で、外国語学習の大切さを感じています。「ことば」は「力」です。オーストラリアの日本語学習者が対人口比で世界一であることを、心から嬉しく思っています。

日本語教育は、日豪交流・協力を幅広い分野で推進する担い手をつくるものだと思います。これまで長年にわたる日本語教育は、数多くの日豪交流・協力の担い手を輩出してきました。この貴重な実績と伝統が失われることなく、次の時代に引き継がれて発展するように、更なる取組を進めたいと考えています。

オーストラリアでは、アニメや日本食、スキー旅行など、若い世代から中高年まで日本に対する幅広い関心があります。そのような関心を手がかりにして、日本語を学習する人が増えれば、日本に対する理解が更に深まり、交流も一層発展することと思います。

皆さんも、まずは自ら日本語を学び、あるいは周りの人に教えていただければ幸いです。「こんにちは！（Hello!）」「日豪で協力すれば、できる！（Yes, we can, with Japan-Australia cooperation!）」

国際交流基金・海外日本語教育機関調査（2018 年）

<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html>

国連人口統計報告（2019 年）（10 万人当たりの日本語学習者算出に使用）

https://unstats.un.org/unsd/demographic-social/products/vitstats/sets/Series_A_2019.pdf

メルボルン宣言（Melbourne Declaration on Educational Goals for Young Australians）（2008 年）（英語）

http://www.curriculum.edu.au/verve/_resources/National_Declaration_on_the_Educational_Goals_for_Young_Australians.pdf

オーストラリア・カリキュラムの輪郭・言語（The Shape of Australian Curriculum: Languages）（2011 年）（英語）

https://docs.acara.edu.au/resources/Languages_-_Shape_of_the_Australian_Curriculum_new.pdf

シドニー日本文化センター（Japan Foundation Sydney）（英語）

<https://jpff.org.au/>

全豪日本語弁論大会（英語）

<https://jpf.org.au/language/for-learners/contests/speech-contest/>

ビデオ祭り（英語）

<https://jpf.org.au/language/for-learners/contests/video-matsuri/>

日本語学習プラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」（英語）

<https://minato-jf.jp/>

NSW 州の日本語補習校リスト

<https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/document/japanese/consul/school.pdf>

シドニー日本語土曜学校

<https://www.sssj.org.au/>

日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針の閣議決定について

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/mext_00250.html

シドニー日本人国際学校

<https://www.sjis.nsw.edu.au/ja/>

トムソン木下千尋編（2016）『人とつながり、世界とつながる日本語教育』くろしお出版。

トムソン木下千尋編（2017）『外国語学習の実践コミュニティ：参加する学びを作るしかけ』ココ出版。

Kinoshita Thomson, Chihiro (2020) “Why introductory Japanese? An Australian case study”, in David Chapman and Carol Hayes eds. *Japan in Australia: Culture, Context and Connections*, Routledge.

（以上）